

Let's農業

第45号



・・・もくじ・・・

- ・ 関東農政局土地改良事業地区等営農推進功労者表彰 令和5年度受賞した4事例を紹介・・・P. 2
- ・ 野菜を田んぼでつくってみました その結果とヒント・・・・・・・・・・・・・・・・P. 5
- ・ 初期費用なし、盗難の心配不要で始める無人販売！野菜の自動販売機サービス・・・・・・・・P. 6
- ・ ほ場の排水改良の強い味方 カットドレン・・・・・・・・・・・・・・・・P. 7
- ・ 施設管理はスマホで！写真、メモ共有アプリ・・・・・・・・・・・・・・・・P. 8
- ・ 令和6年度水田活用の直接支払交付金について・・・・・・・・・・・・・・・・P. 10

◇表紙◇

表紙は、本年度の営農推進功労者表彰受賞者「小林花卉」で栽培しているカラコエです。小林花卉では「頭の良くなる花」とネーミングして出荷することでブランド化しています。

令和6年能登半島地震の被災地へ心よりお見舞いを申し上げますとともに早期の復興を願っています。

<編集・発行>

関東農政局農村振興部農地整備課
さいたま市中央区新都心2-1
TEL：048-600-0600

令和5年度受賞した4事例を紹介

令和5年度関東農政局土地改良事業地区等営農推進功労者表彰の受賞者が決定し、令和5年12月14日（木曜日）に表彰式を開催しました。表彰式の概要と受賞者の取組内容をご紹介します。



営農推進功労者表彰とは？

関東農政局土地改良事業地区等営農推進功労者表彰は、土地改良事業等により整備されたほ場や水利施設等の活用促進のための取組、生産技術の向上や農業経営の改善のための創意工夫によって、他の模範となり、事業及び営農の推進に貢献のあった方々（農業経営体と営農推進組織）を表彰し、その業績を広く紹介することを目的に平成3年度から実施しております。

令和5年度表彰について

令和5年度は選考委員会の審査を経て、小林花卉の小林孝之氏（国営荒川中部農業水利事業所推薦）、有限会社ちば緑耕舎（印旛沼二期農業水利事業所推薦）、白鳥フルーツ農園の白鳥勲氏（長野県推薦）、静波原基盤整備組合（静岡県推薦）が受賞しました。皆様おめでとうございます！

令和5年12月14日（木曜日）に関東農政局で開催した表彰式には、小林ご夫妻、有限会社ちば緑耕舎から杉田代表取締役、増田部長、白鳥勲氏、静波原基盤整備組合から原間ご夫妻が出席されました。表彰式は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い受賞者の皆様は授与式の雰囲気緊張した様子でしたが、参列された県、町、土地改良区等の方々からのお祝いの拍手に笑顔をのぞかせていらっしゃいました。

意見交換会では、原間組合長から「地域をま」とめてほ場整備事業を進めて行くためには、経

営状況に合わせた整備範囲の設定が重要。」、杉田代表取締役からは「できるだけ環境に負荷をかけないことで自分たちの子や孫、未来へつなぐ米作りを目指していきたい。」、さらに白鳥代表からは後進の指導のポイントは「現実味のある未来の夢をしっかりと伝えることです。」と熱い言葉をいただきました。また、小林花卉のイメージキャラクターがご息女の名前をヒントとしたエピソードに会場が明るい笑い声に包まれました。

本年度の受賞者の皆様はお花、お米、果物、お茶と様々な農産物を生産されていることから受賞者の方からは「地元ではお会することのない他の作物の生産者の話を聞きたい機会になりました。これをきっかけにもっと地域の農業を盛り上げていきたい。」との感想をいただきました。皆様本当におめでとうございます!! ご協力いただいた関係者の方々ありがとうございました!!!



小林ご夫妻



杉田代表理事(右)と増田部長(左)



白鳥勲氏(右)



原間ご夫妻

受賞者の取組内容

令和5年度の受賞者の皆様の各地区での取組内容をご紹介します。
それぞれ取り組まれている作物は、お花、お米、果物、お茶とバラエティー豊かです。
皆さんの地区での営農推進の取組の参考としてはいかがでしょうか。
取組内容の詳細は関東農政局ホームページに掲載しておりますので、こちらも御覧下さい。
〔掲載アドレス〕

<https://www.maff.go.jp/kanto/nouson/shigen/hyoushou/240116.html>



～1年を通じて花のある暮らしをお手伝い～

経営体

小林花卉 代表 小林 孝之（埼玉県深谷市）

国営かんがい排水事業「荒川中部地区」

取組のポイント

- ①土地改良事業を契機に畑かん用水を導入。
適切な水管理で花きの品質が向上。
- ②電照・シェード栽培技術の確立で周年出荷を実現。
- ③独自ブランドの展開や品種改良で他社商品と差別化。
- ④給水、温度調整等の自動システムを導入し省力化。



【経営の概要】

雇用者：6人

経営面積：1.2ha

主要作物：花き（鉢物）



『頭の良くなる花』
カランコエ

【事業概要】

地区名：荒川中部地区

事業種：国営かんがい排水事業

関係市町：埼玉県本庄市、深谷市、寄居町

受益面積：3,212ha

工期：平成26年度～令和7年度

事業目的：用排水改良、畑地かんがい



小林花卉のイメージキャラクター
『お花の妖精ユーミーちゃん』



～特別栽培米で農業と沼を元気にする～

推進組織

有限会社ちば緑耕舎（千葉県印旛郡栄町）

国営かんがい排水事業「印旛沼二期地区」

取組のポイント

- ①持続可能で顔の見える農業を目指し特別栽培米の販売組織を設立。事業目的である流域水質保全を推進。
- ②構成員（農業者）が特別栽培米やJAS有機米を栽培。
- ③栽培技術向上の研修会、親子農作業体験イベントを開催。



【経営の概要】

代表取締役：杉田 勉

設立年：平成10年

構成員数：7人

販売量：561t

契約面積：118ha

特別栽培米 114ha

JAS有機米 3ha

もち米（慣行栽培）1ha

【事業概要】

地区名：印旛沼二期地区

事業種：かんがい排水事業

（流域水質保全機能増進事業）

関係市町：千葉県成田市外3市2町

受益面積：5,002ha

工期：平成22年度～令和6年度

事業目的：用排水改良、区画整理
（水質保全）



稲刈り体験



農業体験ほ場



精米施設



～“りんご高密度植栽培”で収量3倍～
 経営体 白鳥フルーツ農園 代表 白鳥 勲（長野県伊那市）
 国営かんがい排水事業「伊那西部地区」

取組のポイント

- ①長野県内でいち早くりんごの高密度植栽培を導入。
 畑かん用水を活用することで、単収は慣行栽培の3倍に増加。
- ②雑草防除、土壌改良、温室効果ガス排出量削減に向けた取組として、剪定枝を炭化し樹元に施用。
- ③県の新規就農里親支援制度の里親農家として研修生を受け入れ。



【経営の概要】

従事者数：4人
 経営面積：5.0ha
 主要作物：りんご4.5ha,
 なし0.25ha,
 ぶどう0.25ha

【事業概要】

地 区 名：伊那西部地区
 事 業 種：国営施設機能保全事業
 関係市町：長野県伊那市、辰野町、箕輪町、
 南箕輪村
 受益面積：2,561ha
 工 期：平成24年度～令和3年度



自社ブランドりんごジュース



りんごの高密度植栽培



～茶園整備で課題解決、収量・品質もアップ～
 推進組織 静波原基盤整備組合（静岡県牧之原市）
 農業競争力強化基盤整備事業「静波地区」

取組のポイント

- ①小規模不整形な茶園の大区画化や園内道路、枕地の整備により、乗用型茶園管理機の導入を推進し、栽培管理の軽減や生産コストの削減を実現。
- ②農地所有適格法人を含む担い手への農地集積・集約化を推進し、農業経営の安定化を推進。
- ③全国初の茶園の農地中間管理機構関連農地整備事業を実施。
 基盤整備モデル地区として、他地区への波及推進の一翼を担う。



【経営の概要】

代 表：原岡 秀樹
 設 立 年：平成31年
 組 合 員：67人
 主要作物：茶

【事業概要】

地 区 名：静波地区
 事 業 種：農業競争力強化基盤整備事業
 農地中間管理機構関連農地整備事業
 関係市町：静岡県牧之原市
 受益面積：6.4ha
 工 期：令和元年度～ 令和3年度
 事業目的：区画整理



整備前
 （集積率14.5%）



整備後
 （集積率87.2%）

土地改良事業地区や農地耕作条件改善事業等の非公共事業地区で創意工夫を凝らし、栽培技術の向上、低コスト化、農地の集積・集約化、農業のグリーン化、担い手の育成等に取り組んでいる農家の方やその取組を推進されている組織の方がいらっしゃいましたら県、国営事業所の担当者にお声がけください。



野菜を田んぼでつくってみました その結果とヒント

関東管内では、国営緊急農地再編整備事業「茨城中部地区」をはじめ、多くの地区でほ場整備事業が実施されています。ほ場整備事業により区画整理、農道を整備することで、作業効率が良くなるほか、排水路やほ場内暗渠を整備することにより事業実施前と比較して、ほ場の排水性が向上します。排水性が向上することで乾田化し、小麦、大豆、野菜などの畑作物の栽培に適したほ場になります。

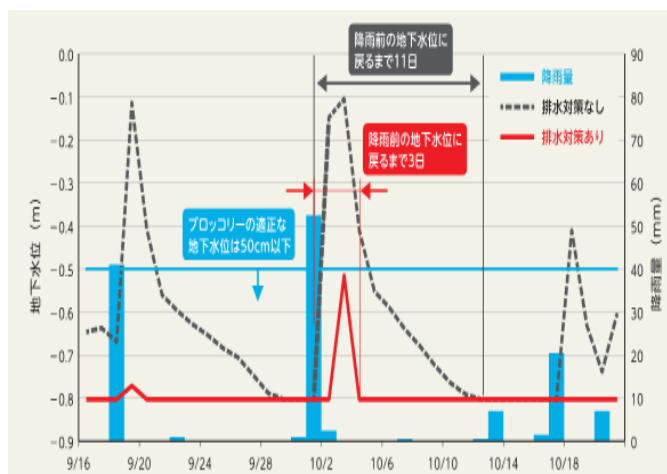
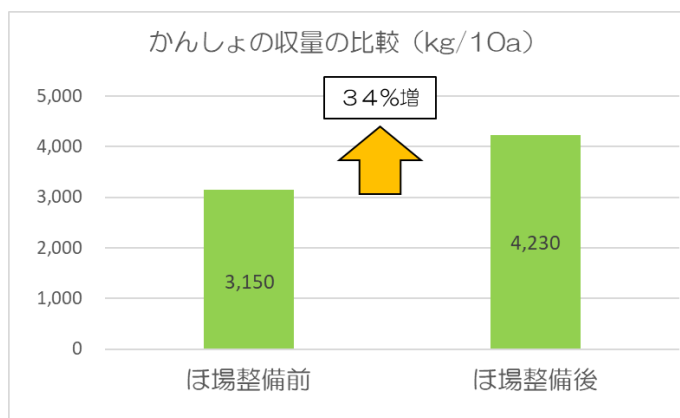
関東農政局では、(国研)農業・食品産業技術総合研究機構及び地元関係機関と協力し、国営茨城中部地区と国営かんがい排水事業「栃木南部地区」に調査ほ場を設置し、野菜の栽培実証調査を行っています。

ここでは、その調査結果と営農で対応可能な排水改良技術を紹介します。

◆栽培結果

ほ場整備により排水路、ほ場暗渠を整備したことで、ほ場の排水性は改善され、降雨後の土壤に含まれる水分量や地下水位は速やかに低下していく傾向が見られました。

かんしょの10aあたりの収穫量は、ほ場整備前は3,150kg/10aでしたが、ほ場整備後は4,230kg/10aと34%増加しました。



◆栽培のヒント

栃木南部地区（栃木県小山市他）では行政機関や農家等が水田でのブロッコリー栽培の拡大に取り組んでいます。栽培にあたっては、ほ場内の排水性を向上されることが重要なことから、トラクターにカットドレーン※を取り付け補助暗渠を施工しています。その結果、降雨によりほ場の地下水位が上昇しても速やかに低下することが確認されました。また、まとめて水田畑利用することで地下水位の上昇を抑える効果が確認できました。※土壌をブロック状に切断し四角形の空隙を空ける農機具（p.7）。



初期費用なし、盗難の心配不要で始める無人販売！ 野菜の自動販売機サービス



今、農産物の無人販売に取り組まれている方、検討されている方、野菜の自動販売機サービスがあることをご存じですか？株式会社NTTアグリテクノロジー（以下、(株)NTTアグリテクノロジー）が手掛ける新たなサービスをご紹介します。

無人販売の課題

出荷するに満たない数量の野菜や、規格外の野菜などを自宅の軒先に無人販売所を設置して販売すると1日の売り上げが数万円を超えるケースもあるようですが、無人販売所を続けていく上で問題になるのが、農産物の持ち去りや表示価格より少ない金額の支払いなどの被害です。

農作業で忙しい中で見回りに人手が割けず、防犯カメラや自動販売機の設置には費用がかかり対策に苦慮し、無人販売所をやめてしまったり、これが理由で無人販売をあきらめてしまう農家もあります。そんな問題を解決すべく(株)NTTアグリテクノロジーが野菜の自動販売機サービスを令和5年11月から開始しました。

サービスの内容

野菜の自動販売機を設置する場合、その購入費用は100万円を超えることもあります。このサービスでは自動販売機を(株)NTTアグリテクノロジーが無償で提供するモデルであることから初期費用なしで設置できます。

また、利用料金は自動販売機での売上高に応じて課金されるので、農産物の種類や天候で売上高が大きく変動しても定額料金とは異なり安心して利用できます。

自動販売機はコインロッカー方式でシンプルな電源不要タイプなので簡単に設置できますが、屋外に設置する場合は雨よけ用の屋根が必要です。

その他に100V電源の送風機能付き、冷蔵機能付きの2タイプがあり、販売する農産物の種類や場所に応じて選択できます。

前述の電源不要のタイプは21個あるポケットごとに100円～600円の範囲で価格設定が可能です。

前面の透明な扉を開けて農家が農産物を補充し扉をロックすると、購入者は扉越しに商品を選び、コイン投入口から100円硬貨を投入し会計すると、扉のロックが解除され商品を取り出せる仕組みです。

開発のきっかけと利用者の声

東京都国分寺市にある嶋崎農園は江戸時代から続く野菜栽培農家で1.4haの農地で約40種類の野菜を栽培し、スーパーや学校給食に出荷する他、軒先で直売も行っていますが、こちらの無人直売所でも盗難被害に困っており、その被害額は年間10万円以上及んでいました。

イベントでの名刺交換をきっかけに一次産業に関連した事業を手掛ける(株)NTTアグリテクノロジーが野菜の軒先販売における課題解決に向けた事業を検討し、令和5年11月にサービスを開始、第1号機を嶋崎農園に設置しました。

農園の嶋崎貴之氏は、自動販売機を設置する前は、直売所の売り上げを計算し野菜が盗まれたことがわかるたびに金銭的被害と憤りややるせなさに悩んでいましたが、設置後は盗難被害はなくなり、野菜栽培に集中できるようになりましたと、その効果を実感しています。



嶋崎農園 嶋崎貴之氏

今後の展開

現在、より多くの生産者にご利用頂けるよう、メディア等を活用してサービスの普及を図っています。

また、生産者に加え行政機関と連携して公共施設やイベント会場等での設置も検討しています。ネットワーク機能やカメラ機能を搭載することで収集したデータを分析し、適正価格の提案や資材提供サービスを行っていくことも検討しています。

野菜の自動販売機の仕様

例：「あっちゃん21」の場合

◇サイズ：

本体 高さ179cm×幅90cm×奥行45.5cm

ポケット 縦19.5cm×横22.5cm×奥行45.0cm

◇ポケット数：21個（3列×7段）

◇価格設定方法：ポケットごとに100円

～600円の間で価格設定可能。

(株)NTTアグリテクノロジー

食と農の分野において、新たな可能性と価値を見出し、持続可能で豊かな社会を創ることを目指し令和元年度に設立。ICTを活用し園芸施設での栽培環境因子のデータ収集と分析サービスを提供。

■自販機に関するお問い合わせ：

info-niwasaki-ml@east.ntt.co.jp



ポケット正面



ポケット内部



農研機構



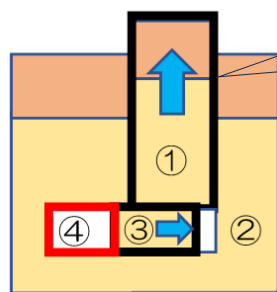
ほ場の排水改良の強い味方 カットドレン

水田で野菜を栽培したいけれど、水はけが心配で、何かいい対策がないかと検討されている方に農研機構で開発した「カットドレン」をご紹介します。

トラクターに「カットドレン」を取り付け牽引するだけで簡単に補助暗渠が形成できます。また、暗渠と同じ70cmまでの任意の深度に10cm四方の大きな通水空間を作ることが出来、暗渠にかからない深さで暗渠に対して直角施工します。実際の効果は本誌の記事（p.5）をご覧ください。

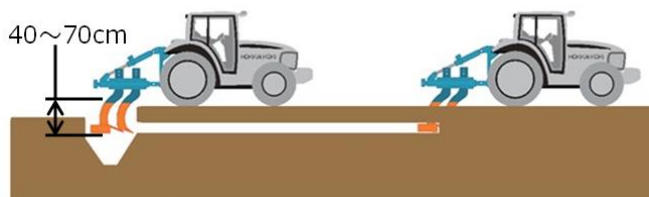


土壌断面



施工の原理

①縦長に土を切断・成形して持ち上げ②その下に空洞をつくり③空隙横の土を切断・成形して空洞へ移動させ④通水空洞をつくる

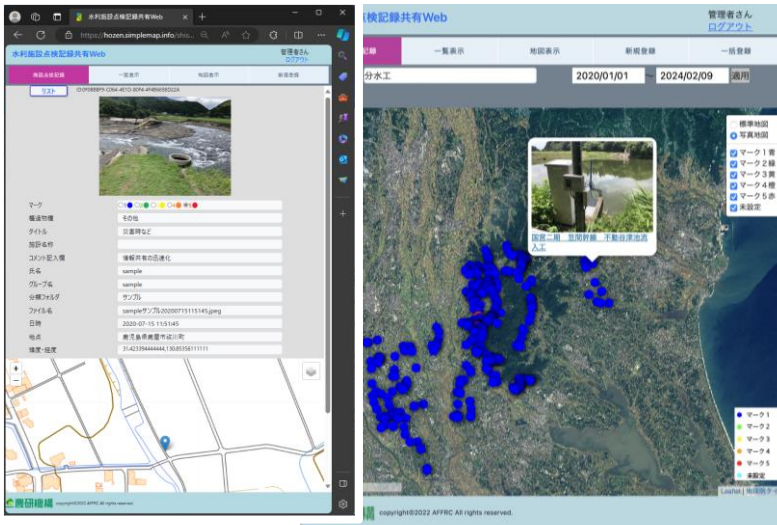


排水路からの穿孔による無材暗渠の施工方法

施設管理はスマホで！写真、メモ共有アプリ

水路やファームpondなどの日々の点検作業や突然の漏水への対応では、現場での処理を終えて、机に戻って報告書を整理していると、撮影した写真がどこの写真なのかわからなくて困った経験はありませんか。また、点在する施設情報を新旧職員で共有するのに、GISソフトウェアを導入したいけれど、コストもかかるし操作が大変と悩んでいる土地改良区の方も多いのではないのでしょうか。

土地改良区の方のお悩みを解決すべく、農研機構で開発したスマホで始められる施設管理アプリをご紹介します。

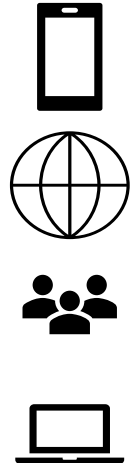


現地で写真撮影、
コメント入力

GPS機能で自動で
位置特定

グループ内で情報
を共有

パソコンでの閲覧、
作業可能



アプリの特徴

このアプリの特徴は情報は、スマホで撮影した写真や入力したコメントをWeb上で共有できることです。スマホを使うことで簡単にデジタル化できます。

また、スマホのGPS機能を活用し、撮影場所の位置情報と施設等の情報を紐づけし、Googlemap等を利用して地図上に表示できます。データ入力をスマホで行うことで、誰でも簡単に操作でき、本格的なGISより低コストで導入できます。なお、アプリはAndroid、iPhoneに対応しています。

こんな時便利！ アプリの使用例

- ☑施設の見回り点検結果の記録、情報共有。
- ☑工事の進捗管理や報告書作成
- ☑道順がわかりづらい施設の道案内の地図
- ☑災害時の状況把握・情報共有
- ☑動植物の生息情報の整理

ユーザーの声

実際にこのアプリを利用されている土地改良区では、代掻き、田植えの時期は見回りや

トラブルへの対応に追われ、戻ってきから写真を整理しようとして、どこの写真かわらない等大変でしたが、導入後は現地で写真、メモを入力するとリアルタイムで職員同士共有できるようになりました。また、管理地区の施設工事や受益変更のたびに管内図を作成するわけにもいかず、新規採用の職員へ施設の場所を伝達するのが大変でしたが、このアプリを利用することで最新の地図上に施設の場所と写真が表示されるので職員間のコミュニケーションがとりやすくなったとの声をいただいています。

アプリの開発・問い合わせ先

このアプリは、農村振興を目的とした技術開発や災害対策のための技術支援を行っている農研機構農村工学研究部門で研究・開発しています。使いたい、説明が聞きたい場合などお問い合わせください。

【問い合わせ先】

国立研究開発法人農業・食品産業総合研究機構
農村工学研究部門施設工学研究領域
施設保全グループ

操作方法

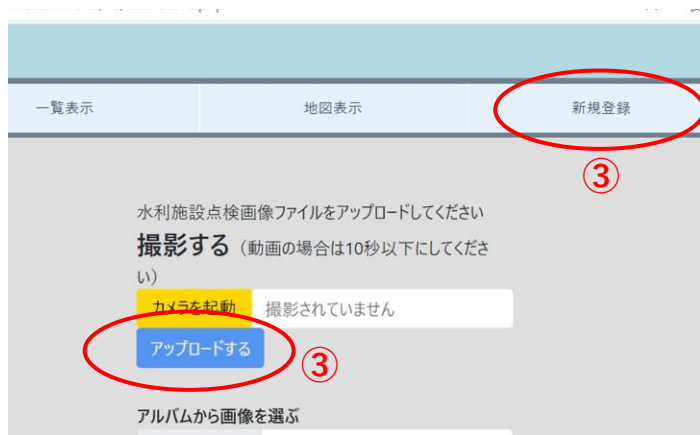


①インターネットに接続しwebサイト※にアクセスし、ログインします。(PC、スマホ、タブレットどれでもOK。)

※アクセス先は下記参照さい。

②メニューから「施設点検記録」を選択します。

下記URLまたは、QRコードからログイン。(お試し用ID：00@sample
パスワード：00)
<https://hozen.simplemap.info/login.php>



③メニューから「新規登録」を選択します。その場で撮影または既存写真を選択して、アップロードをクリックし、次へボタンをクリックします。



④作業のタイトルやメモを入力し、登録内容を決定します。(キーボード、音声、タッチペンに対応。)

⑤保存した情報を表示する場合は、メニューから「一覧」を選択し、記録した情報の中から「地図表示」を選択し、一覧の中から地図上に表示する内容を選択します。

⑥メニューから「地図表示」を選択します。

◆◇ 令和6年度水田活用の直接支払交付金について ◇◇

担い手農家の経営の安定化や、麦・大豆などの戦略作物の本作化を進め水田のフル活用を図るために、農林水産省が実施している、水田の直接支払い交付金制度のポイントについて紹介します。

【対策のポイント】

食料自給率・自給力の向上に資する麦・大豆・米粉用米等の戦略作物の本作化とともに、地域の特色をいかした魅力的な産地づくり、産地と実需者との連携に基づいた低コスト生産の取組、畑地化による高収益作物等の定着等を支援します。

【事業の概要】

戦略作物助成

水田を活用して、麦・大豆・飼料作物・WCS用稲・加工用米・飼料用米・米粉用米を生産する農業者を支援します。

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a※ ¹
WCS用稲	8万円/10a
加工用米	2万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、5.5万円～10.5万円/10a※ ²

<交付対象水田>

- ・湛水設備(畦畔等)や用水路等を有しない農地は交付対象外。
- ・5年間で一度も水張り(水稲作付)が行われない農地は令和9年度以降は交付対象水田としない。
- ・水張りは、水稲作付けにより確認することを基本とする。
ただし、①湛水管理を1か月以上行い、②連作障害による収量低下が発生していない場合は、水張りを行ったものとみなす。

※¹:多年生牧草について、収穫のみを行う年は1万円/10a

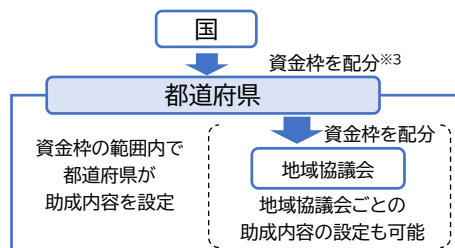
※²:飼料用米の一般品種について、令和6年度については標準単価7.5万円/10a(5.5～9.5万円/10a)

今後、標準単価を段階的に引き下げ、令和8年度において標準単価6.5万円/10a(5.5～7.5万円/10a)とする。

産地交付金

「水田収益力強化ビジョン」に基づく、地域の特色をいかした魅力的な産地づくりに向けた取組を支援します。

- 当年産の以下の取組に応じて追加配分。



取組内容	配分単価
そば・なたね、新市場開拓用米、地力増進作物の作付け(基幹作のみ)	2万円/10a
新市場開拓用米の複数年契約※ ⁴ (3年以上の新規契約を対象に令和6年度に配分)	1万円/10a

※³:作付転換の実績や計画等に基づき配分

※⁴:コメ新市場開拓等促進事業で採択された者が対象

都道府県連携型助成

都道府県が転換作物を生産する農業者を独自に支援する場合に、農業者ごとの前年度からの転換拡大面積に応じて、都道府県の支援単価と同額(上限:0.5万円/10a)で国が追加的に支援します。

コメ新市場開拓等促進事業

産地と実需者との連携の下、新市場開拓用米等の低コスト生産等の取組を行う農業者を支援します。(予算の範囲内で、助成対象となる地域農業再生協議会を決定)

畑地化促進事業

水田を畑地化し、高収益作物やその他の畑作物の定着等を図る取組等を支援します。
(令和5年度補正予算と併せて実施)

- | | | |
|--------------------------------|---|---|
| ① 畑地化支援※ ⁵ | 14.0万円/10a | ※ ⁵ :対象作物は、畑作物(麦、大豆、飼料作物(牧草等)、子実用とうもろこし、そば等)及び高収益作物(野菜、果樹、花き等) |
| ② 定着促進支援※ ⁵ (①とセット) | 2万円(3万円※ ⁶)/10a×5年間 または 10万円(15万円※ ⁶)/10a(一括) | ※ ⁶ :加工・業務用野菜等の場合 |
| ③ 産地づくり体制構築等支援 | | |
| ④ 子実用とうもろこし支援 | (1万円/10a) | |